

【記者からの質問】

<当初予算案について（その1）>

朝日新聞／国スポのソフト面が、先催県より高くなった背景や要因を詳しく聞きたい。
知事／鹿児島県と比較すると約15億円の増加。物価高騰や物流2024問題の影響が約半分、残りは新しい大会の実現のための投資。ナイトゲーム、個人表彰、全障スポの伴走者へのメダル贈呈など。一部の競技を県外で実施することで、ハードの整備に約7億円、バス輸送の規模縮小で約3億円を減少できた。

朝日新聞／国スポ開催での具体的な経済効果を聞きたい。また、それ以外の効果に期待するものは？

知事／この大会が、将来への生きた投資に結びつくようなハードの整備をしたいと考えた。円滑な国体の運営のためには、バレーボールなら4面とれる体育館がいい。しかし、国体が円滑に進んでも、その後のエンターテインメントでは使いづらい。だから、1面集中型にして、コンサートやイベント開催時に感動できる空間にしたかった。

先催県は、開会式のスタジアムを屋根付きにする。佐賀大会は、雨ならカップを着てもらふことにして、資金のやり繰りをした。栃木県は、屋内に飛び込みプールをつくった。屋内飛び込み台は、屋根を高くしなければならない。すると、維持管理費が高額になる。そこで、佐賀県は屋外にした。炬火台もつくっていない。これが一番工夫した。

SAGAアリーナは、様々なイベントが開催され、効果が出てきた。さらに、新たな楽しみ方を提供できると期待している。

朝日新聞／具体化プログラムの5,300万円で、新年度に何が進むのか。

知事／専門家チームの運営費1年分が約2,600万円。専門家チームの意見を踏まえた調査委託事業が2,400万円、広報に200万円。

学部規模、特色ある教育、県内出身者の受け入れ方法、リカレント教育のコースやカリキュラムなどを決める。その中で、場所も決まっていこう。

チームの皆さんとの協議で決まるので、現在は未定だが、方向性が決まったところから皆さんにお示しする。

朝日新聞／場所は、新年度の間にどの程度進むのか。

知事／私見ですが、令和10年開学のためには、急がないといけない。最大200億円とみているが、それ以下で実現したい。施設の改修も視野に入れ、できるだけ早く大学機

能がほしい。そうすると、おのずと場所が決まると思う。まだ、専門家チームが組織中なので、場所の話し合いができていない。早めに取り組みたい。

朝日新聞／予算編成で、縮小を余儀なくされたものがあれば教えてほしい。

知事／ハード整備が厳しいものになった。資材高騰が落ち着くと、折り合える地点が見えてくる。県内の施設整備は、様々なものが止まっている。アサヒビールも3年延期。災害があり、関西万博の開催も取りざたされている。

社会保障費を10億円増額し、計画を組み直した。未来に向ける投資をしながら、ある程度抑えるべきところは抑える工夫をした。

日刊工業新聞／企業誘致に50.5億円とある。新しく工業団地を整備したり、調査費用だったりするのか。

知事／具体的に言えないが、鳥栖市の34ヘクタールの団地が好感触。東部地区は、整備するとすぐに売却できる。

県内には優良農地が多いので、それをどう転換するか。また、農家に移転してもらう場合どうするかという問題もある。

今回、初めて民間デベロッパーに開発する形を取り入れた。方法を工夫し、どこまで企業誘致をやるのか。しかし、可能性が高いので、適地調査は進めたい。

日刊工業新聞／まず、鳥栖ですか。

知事／鳥栖だけではない。市町とともに適地を調査する。耕作されている農地なので、調整も必要になる。

佐賀新聞／当初予算全体の性格を表すような言葉があれば教えてほしい。

知事／今回力を入れたのは「人」。「挑戦なくして伝統なし」と、有田でよく使われる言葉がある。予算編成では、人への投資に力を入れようと呼びかけた。人への投資は、未来への投資。県民の皆さんの希望の光になるので、人にお金をかける。それは裏切らない。必ずプラスになって返ってくると信じている。

鍋島直正公が弘道館を大事にしたように、人に思い切った投資をした。

佐賀新聞／県立大学の調査費2,400万円とは、どんな調査を想定しているのか。

知事／詳細を説明できないが、チームがアイデアを出したとき、実現の可否を確かめるために委託調査をしなければならない。それを踏まえて、また議論を重ねるという作業

になる。実現可能性を具体的に落とし込む調査委託事業に約2,400万円。それが具体的にどう使われるかは、議論次第。

佐賀新聞／唐津線のICカードが未整備な理由を。

知事／ICカードの初期投資は、佐賀県と長崎県で出す。維持管理、運営はすべてJR九州が担う。そのように合意したので、JRとの調整の状況から唐津線は厳しいと思う。次の段階で、事業立てができるかをJR九州と話し合いたい。今回は、佐賀と長崎のいい事業になった。

NHK／国スポに向けた今回の予算への想いを伺いたい。

知事／これまでためてきた基金100億円をここで使い切るわけです。これだけの投資に対する効果を県民の皆さんと享受できるようにしたい。できるかどうかは、県民の皆さんとの共同作業にかかっている。

佐賀県民が、佐賀を誇りに思って、すばらしい場所だとともに発信できる機会にすれば、この100億円は生きたお金になる。そうしなければいけないという強い覚悟を持っている。

NHK／佐賀県にとって江藤新平が、どんな形になればいいとお考えか。

知事／西郷隆盛は流罪になり、薩摩藩との関係はよくなかった。しかし、彼の生きざまが、現在の薩摩人の誇りになっている。調べると、坂本龍馬も西郷隆盛も、後づけて後世の人が英雄に仕立て上げた。坂本龍馬は、薩長を結び付けたとドラマ化して人気が出た。佐賀県人は、これをやってこなかった。

江藤新平は、まっすぐに理屈を押し通し、日本の将来を見据えて、奮闘した人。江藤新平の人物像を通じ、佐賀をひも解いていけるよう展開したい。

<2月補正予算案について>

読売新聞／補正予算の狙いを教えてほしい。

知事／2月補正は、基金がゼロになるので、現段階でやれる経済対策、物価高騰対策を精査して、この予算になった。今回は、今できることをすべて精査しながら行った予算だと思う。

<当初予算案について（その2）>

読売新聞／プラスチックセンターの施設整備につて、発案への経緯と今後の展望を教えてください。

知事／この財源は、原発施設立地地域共生交付金。原発の交付金の使い方が、私たちの命題になっている。1つの施設に集中して使うのではなく、未来に向かった事業は何かを議論した。

海洋プラスチック問題は、大きな課題であり、地域特有の問題でもあった。だから、問題提起ができる事業立てをしたいと思った。原発からのお金であるからこそ、問題提起ができるのではないかと。

毎日新聞／理系人材の育成と佐賀で活躍する人材確保・育成は、将来的に県立大学への進学への動機づけや意図があるのか。

知事／県立大学は、理文融合型。それが必要だと思い、そういう人材を育てたいから。

これからの人材像である「自分で打開できる人材」をつくるという意味からすると共通点がある。理系の人材が育って、県立大学に進学する。県立大学の機能がほしい理由は、そのつながりをネットワークの知の拠点にしたいから。県立大学がないと、ネットワークをつくれぬ。その布石になっているのは、おっしゃるとおり。

朝日新聞／佐賀県の人口が、23.5%減少すると推計が出た。予算編成で、長期的な将来を見据え、力を入れた政策があれば教えてください。

知事／人口減少は、全国的な課題。人口が減少すると、後期高齢者に対する支出が増える。それを生産労働人口で支えなければならない時代になる。だから、高齢者の皆さんに元気でいてもらう政策が大事になる。併せて、若い人をしっかり育て、佐賀で働いてもらうことも大事になる。人口減だからこそ、人手不足対策に乗り出すべき。

佐賀県は、子ども比率全国3位。それが、毎年2,000人以上の人が県外に流出している。しかも何十年も続けてきた。機会損失がはなはだしいと、皆さんに気づいてもらいたい。県外に行きたい人は、県外で活躍してほしい。佐賀に残って活躍したい人の受け皿が不足している点で、待ったなしだと感じている。

朝日新聞／江藤新平の復権を公金でやる意義、必要性をどのようにお考えか。

知事／今回は、1つのきっかけ。幕末維新博覧会で七賢人を顕彰した。それが、佐賀の誇りにつながった。維新博を見た子どもが、佐賀の子でよかったとカードに書いて貼ってあったのが忘れられない。郷土に対する誇りは、金の価値では考えられない大きなも

のがある。今回は、両者で4,700万円の事業。これが大きく広がって県民の誇りになる。

江藤新平は、民衆のために司法はあるべきだと主張して裁判制度を導入した。制度が民のためにあるという思想は、現在の混沌とした時代だからこそ、守らなければいけない。時代にマッチしていると思う。